

# 羊毛ふとん

羊毛は、繊維の表面がウロコ状で独特のちぢれ(クリンプ)をもっている。  
この形状が優れた保温性、吸湿・放湿性、弾力性を作り出している。

湿度を与えると、自然に熱を出す性質があるので、寝ている間に人の汗を湿気として吸収し暖かくなる。これを吸着熱という。

羊毛の種類は、約3000種類にも及ぶが、ふとん用には繊維の太い約100種類が使用される。

## <羊毛ふとんの主な種類>

詰めもの：

- ・羊毛 100% → 羊毛ふとん
- ・羊毛 50% ポリエステル 50% → 合繊入羊毛ふとん
- ・ポリエステル 70% 羊毛 30% → 羊毛入り合繊ふとん

用途：

掛けふとん、肌掛けふとん（ウールケット）、敷きふとん

敷きふとんには、パッド式のもの、二層・三層式で中芯にポリエステルや羊毛の固わたを使用したものがある。

## <羊毛ふとんの特性>

- ①暖かい・保温性が高い
- ②吸湿性がよい 吸湿発熱（吸湿熱）
- ③放湿性がよい 夏涼しい（気化熱）
- ④燃えにくい（自己消化性）

## <詰めものの臭いやヘタリ>

### ○羊毛ふとんの臭い

動物性繊維のため蒸れにより臭いが発生することもある。  
乾燥させれば、基本的には臭いは薄れる。

### ○羊毛敷きふとんのヘタリ

使用により羊毛繊維のスケール同士が絡み合い、かさの回復を阻害するようになる  
これをフェルト化という。